

PRAEVIDENTIA DAILY (2月17日)

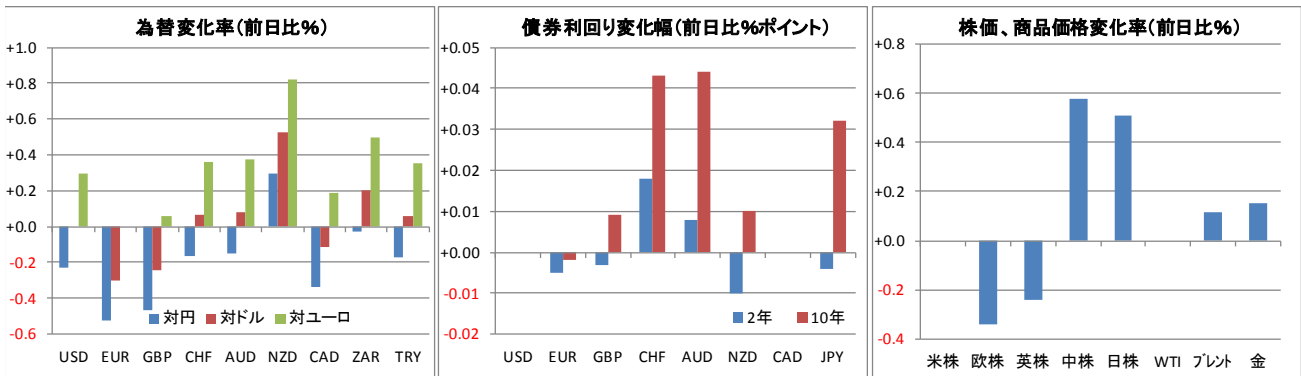
昨日までの世界：ギリシャ合意なし

昨日は、ユーロ圏財務相会合でギリシャとユーロ圏側が合意に至らないことが判明すると、ユーロ/ドル相場が1.14ドル丁度近辺から一時1.1317ドルへ、ユーロ/円は135円丁度近辺から一時133.96円へ大きく下落した。会合では、ユーロ圏側が支援プログラムの6か月延長をギリシャが申請すべきとの案をギリシャ側が拒否した。Varoufakis ギリシャ財務相は新たな財政政策を停止する代わりに4-6か月分の追加資金を受け入れる案であれば合意できたという虫のいい話をしている。Lagarde・IMF専務理事はギリシャが改革を進めなければこれ以上の融資は不可能と発言、Dijsselbloem ユーログループ議長はギリシャが20日までに現行支援プログラム延長を申請する必要があると述べている。

ドル/円は米国休場で動意薄の中、ギリシャ合意なしの報道が若干の重石となり、118円台半ばへ弱含みとなった。本邦4QGDPは前期比年率+2.2%とプラス化したものの予想(+3.7%)を大きく下回る結果となったが、特に日銀追加緩和期待が高まったという訳でもなく、円安には振れなかった。

NZドルは、昨日早朝発表のNZ4Q小売売上高が前期比+1.7%と市場予想(+1.3%)を上回ったことから対米ドルで上昇した。但しギリシャ合意なしを受けたユーロ/ドル下落につれるかたちで小反落している。豪ドルは対米ドルで横ばい圏内の推移となった。

主要通貨、債券利回り、株価の前営業日比変化



きょうの高慢な偏見：英米は原油安を気にしない？

きょうの注目通貨：EUR↓、USD/JPY↓、NZD↑

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
豪 RBA 議事要旨	9:30			
中国 1月住宅価格・前年比	10:30	-4.3%		
英 1月 CPI 前年比	18:30	+0.5%	+0.3%	目標レンジ下限は1.0%
ドイツ 2月 ZEW 期待指数	19:00	48.4	56.0	これまで3か月連続改善
米 2月 NY 連銀製造業景況指数	22:30	9.95	9.0	
世界乳製品取引 (GDT) オークション・指数		866		過去4回連続上昇
Plosser フィラデルフィア連銀総裁発言	2:45			タカ派、3月1日退任

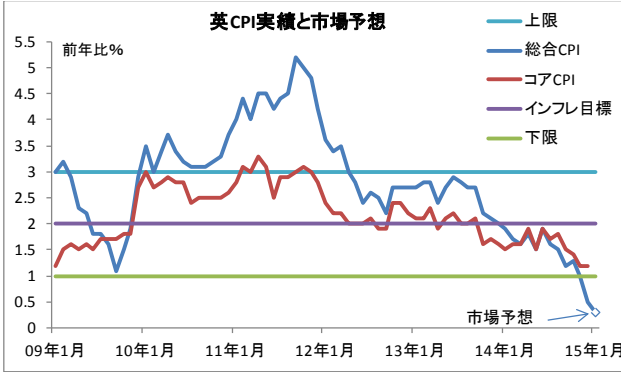
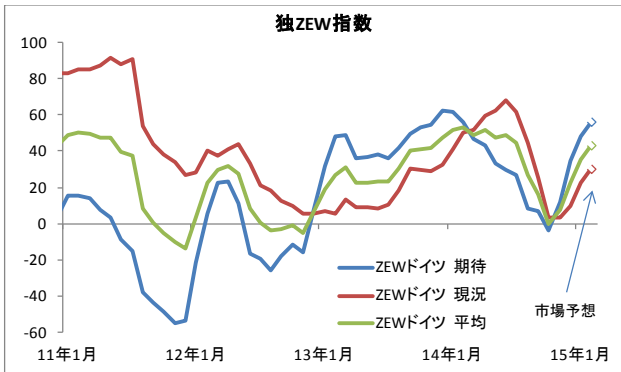
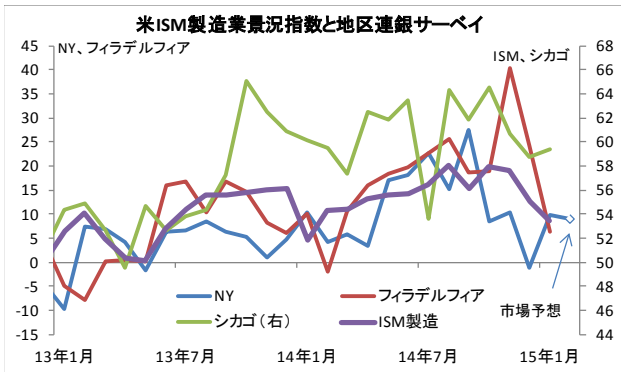
(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

ユーロは、ギリシャ支援問題で合意に至らなかったことから下落した後、一旦下落が一服しているが、現行支援プログラムの期限が2月末に迫る中で、何も進展が見られない場合には再び下落方向となりそうだ。この間、ドイツ ZEW 期待指数は、他のユーロ圏景況感指数全般と同様に、ECB 量的緩和やユーロ安を好感して改善傾向が続くとみられるが、景況感改善だけではデフレ傾向や量的緩和からくるユーロ先安観は大きく変化しないとみられる。

ドル/円は、ギリシャ債務問題の進展と米 NY 連銀製造業景況指数が注目だ。米国の地区連銀製造業サーベイおよび ISM は拡大領域で推移しているものの昨年後半以降やや鈍化傾向で、予想を更に下回るようだとこれまでのドル高の悪影響が意識され、利上げ期待が若干後退しドル下押し圧力となるリスクがあるだろう（下図を参照）。

豪ドルは、対米ドルで 2 月入り後安値圏でやや方向感なく推移している。恐らく先行きの RBA の追加利下げの有無について、市場が確信できずにいるためとみられる。この点、2 月利上げの後、既に四半期金融政策声明や Stevens・RBA 総裁の議会証言で、先行きの金融政策スタンスを明確にしないことが明確になっており、本日の議事要旨で新規材料が出てこない可能性が高まっている。むしろ豪ドルや、原油価格につれて動くカナダドルや、乳製品価格オークション（GDT）結果を受けた NZ ドルの影響を受け易いだろう。月 2 回開催される GDT は急落した後過去 4 回は小幅ながら回復が続いており（下図を参照）、続伸の場合は RBNZ の利下げ期待の後退から NZ ドルは上昇しそうだ。

英 CPI は前年比ゼロ%に向けて更なる低下が予想されている。これ自体を取れば、特に市場予想を下回る場合、他の多くの中銀と同様に BoE が利下げあるいは量的緩和再開に踏み切ると見る向きが増え、ポンド安となるリスクがある。もっとも、先週の BoE 四半期インフレ報告公表時に、既に BoE は目先インフレ率がマイナスとなる可能性すら言及しており、青天の霹靂ではないこと、そして足許のインフレ低下が原油安を主因とするもので一時的なものであること、などから、必ずしも目先の金融緩和には繋がらないとみられる。このため、予想比下振れ時のポンド安はどちらかという限定的で、むしろ予想を上回る場合のポンド高の方が幅としては大きくなりそうだ。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。

当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641